

6. 電気を起こす水はどんなところを通るの？ めとうだいに はつでんしよ 芽登第二発電所への水

川で行われた大きな工事

川につながる
ふだんの暮らし

川につながる
農業

川につながる
漁業や工業

付録



めとうだいに はつでんしよ ひりべつがわ としべつがわ
芽登第二発電所。美里別川(利別川支流)。

協力・問い合わせ先
電源開発・上士幌電力所 01564-2-4101

(1) 山の中を通ってきた水を使う

めとうだいに はつでんしよ ひりべつがわ
芽登第二発電所は美里別川にありますが、ダムのご下にはありません。

発電所に向かって山からパイプが造られていて、そこに水を流して発電しています。この水はどこから来るのでしょうか？

注意!!…発電所には、勝手に入らないこと。見学などをする場合は、先生を通して事前に相談しましょう。



めとうだいに はつでんしよ
芽登第二発電所へ水を流す管。近くで見るとかなり大きなもの。

(2) 水路の橋もある

めとうだいに はつでんしよ
芽登第二発電所へ送られる水は、ほとんど地面の中のトンネルを通っています。

ただ一部分、橋になっているところがあります。

これは、発電所まで水の高さを、できるだけ落とさないようにするためです。

(→ 水路の橋 p32・p82)

注意!!…この橋は水だけのための橋です。登ったり、わたったりしてはいけません。



工事中の水路のトンネル。
あしよろはつでんしよ
(足寄発電所に向かう水路)
(「糠平建設所 思い出のアルバム」電源開発(株)糠平建設所、1956 より)



下を通る道路から見上げた水路の橋。



はなれたところから見た水路の橋。

(3) 音更川から水が来る

芽登第二発電所へは、美里別川だけではなく音更川からの水が送られています。

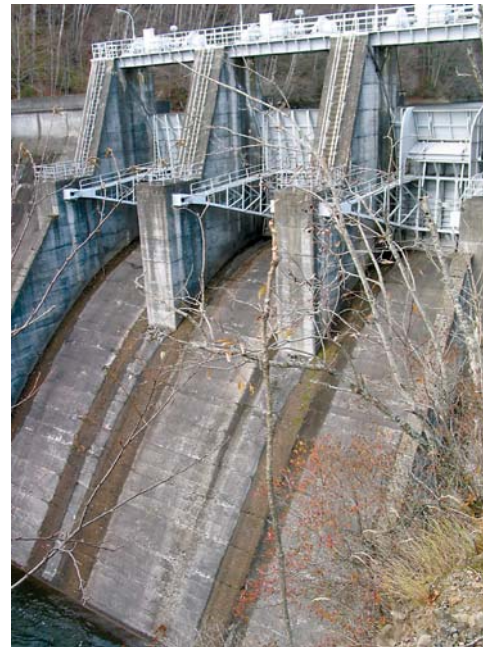
一度、糠平発電所（音更川）で電気を起こした水は、少し下流の元小屋ダムにためられます。その水がトンネル水路を通して美里別川に送られ、まず芽登「第一」発電所で電気を起こします。

その水に、美里別川の水が加えられ、ふたたび水路を通過していき、芽登「第二」発電所で電気を起こしています。^{※1}

第二発電所の先でも、水は活込ダムでためられた後利別川の足寄発電所へ送られ、さらに仙美里ダムでためられて本別発電所へ送られ、それぞれで電気を起こしています。

これは、一度糠平ダムでためた水を、ムダなく何回も使って発電できるようにするための工夫です。

(→ 糠平ダム・糠平発電所 p52・p18)



元小屋ダム。音更川、上士幌町元小屋。

川で行われた大きな工事

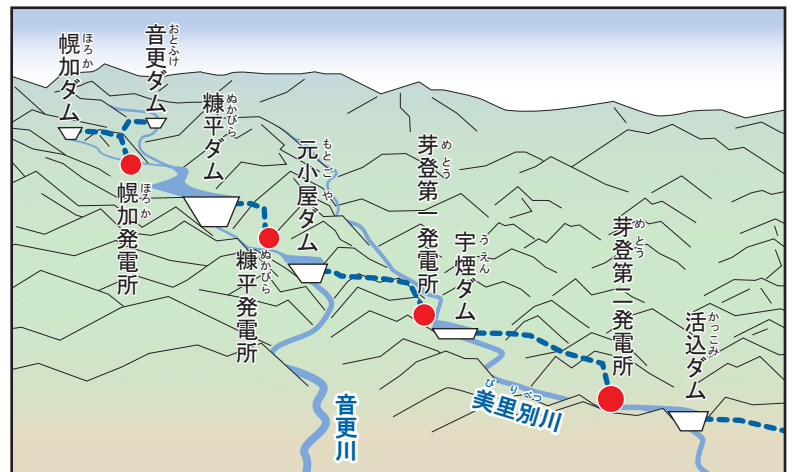
川にしながら
ふだんの暮らし

川につながる農業

川につながる漁業や工業



糠平ダム以降の5発電所に幌加発電所も加え、「糠平系」と呼ばれる。



糠平ダムから芽登第二発電所までの立体イメージ。水路を使って落差をつくる。
(「十勝大百科事典」(十勝大百科事典刊行会 北海道新聞社 1993)1016ページの図を参考にして、イメージ図として改変。項目著者は沢田良樹氏)



芽登第一発電所(美里別川)。音更川から水が送られてくる。



宇煙ダム(美里別川)。芽登第一発電所のすぐ前にある。ここで取られた川の水と発電所から出た水が、トンネル水路を通して送られる。

付録

協力・問い合わせ先: 電源開発・上士幌電力所 01564-2-4101

※1 芽登第二発電所に送られる水(めとうだいにばつでんしよに…) : 美里別川支流のホロカピリベツ川→美里別川の幌加美里別ダム→美里別川支流の又カナン川にある糠平ダム、という順に水が合わされ、この水が音更川の元小屋ダムからの水とともに、芽登第一

発電所へ送られる。さらに発電をした水に宇煙ダムの水や、美里別川支流の喜登牛川の水などが合わされて、芽登第二発電所に送られる。どこからどれだけ水を取るかは、その時の状況によって決められる。